



上智大学

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
入学センター TEL 03-3238-3167
https://www.sophia.ac.jp/jpn/

上智大学

Sophia University



世界基準の「深い学び」実現へ 単位に関する新制度を導入 日本の高等教育変革に挑戦する

SUMMARY

1913年、国や文化の違いを超えて集った3人の神父によって設立された上智大学は、キリスト教ヒューマンズムを礎とした人間教育に基づき、「他者のために、他者とともに」(For Others, With Others)という教育精神を掲げています。9学部29学科、10研究科が都心のコンパクトなワンキャンパスに集まる「小さな総合大学」であり、幅広い世界とのネットワークが上智大学の強みのひとつです。

2027年度からは、履修の上限単位数を引き下げる新カリキュラムを導入、学生一人ひとりの「深い学び」の実現を目指します。日本の高等教育機関が長年にわたって抱えてきた課題への取り組みであり、日本の大学教育を世界基準にするための挑戦でもあります。



いけだまこと
池田 真副学長

早稲田大学政治経済学部経済学科、上智大学文学部英文学科卒。ロンドン大学キングズカレッジ大学院に留学。2015年本学文学部英文学科教授。2025年より現職。

01 「単位の実質化」に向け 新カリキュラム導入

多様化・複雑化する社会の中で、上智大学は他者と協調しながら未来を切り拓く人材の育成に力を注いできました。キャンパスに集うすべての学生が思いやりの心を大切にし、深い学びを通して社会へ羽ばたくために、上智大学は「グローバル・ワンキャンパス」「叡智のネットワーク」「キャリアデザイン」という3つの教育環境を約束として掲げています。

例えば、全学部・学科が集結するワンキャンパスでは、文理の枠を超えた出会いと学びを実現。日本はもちろん、世界各地から学生や教員が集うグローバルな環境の中で、多様な価値観に触れ、他者への理解を深めます。また、「叡智のネットワーク」では、世界各地の海外教育機関との連携に加え、国連をはじめとする国際機関の専門家による講演など、国際協力に関するイベントも数多く開催しています。

こうした教育環境のもと、上智大学は学生の学びをさらに深化させるため、2027年度から「単位の実質化」に向けた新カリキュラムを導入します。「大学の学びは本当に充実しているのか？」という問いに真直面から向き合い、日本の高等教育が長年抱えてきた「単位と学習時間の乖離（かいり）」という課題に挑み、学びの質を高めるための改革です。

02 授業外学修の充実が 深い学びにつながる

当 初の大学設置基準では、講義時間1に対して授業外学修時間2が想定されていた。それが今でも踏襲され、一般的には週1回90分の授業であれば、週

03 サポート体制の充実図り 新キヤップ制を導入

180分の授業外学修が必要とされています。日本の大学1、2年生は、週に12、13科目を履修することも珍しくありません。仮に1科目90分の授業を12科目履修すれば、週2160分、すなわち1日あたり5時間以上の授業外学修が必要になります。しかし、ある調査では、日本の大学生の半数は授業外学修が週5時間以下にとどまり、それが当たり前となっている欧米の大学生と比べ、学修時間は数分の1にすぎません。つまり、単位制が名目上のものとなっており、それを本来の姿に戻そうというのが「単位の実質化」です。

また、日本の大学生が週に多くの授業を履修する背景には、履修単位数の上限を定める「キヤップ制」が十分に機能していないという課題もあります。

長年、この問題に取り組んできた池田真副学長は、「授業外学修時間の不足は、学修の質にも影響します。授業は教員の話や聞き受け身の時間が多くなりますが、授業外学修では、文献を読み、自分で考えをまとめることが中心になります。その二つが組み合わさってこそ、深い学びになるのです」と説明します。

04 本気の学びができる 最高の環境を用意

二 の改革は、上智大学だけにとどまるものではありません。「単位の实質化に本学が先鞭をつけて取り組み、成果を上げることで、他大学の改革も進みます」と池田副学長が語るように、日本の高等教育を世界基準へと引き上げていくことにもつながる挑戦なのです。

学生は、ただ授業を受けるだけでなく、自主的な授業外学修を通して、調査・分析・執筆する力や、物事を深く考える力を磨いていきます。それらはやがて、グローバル・エンプロイアビリティ(世界のどこに行っても、どの分野でも活躍できる汎用的な能力)へとつながります。これは、上智大学が掲げる3つの教育環境の一つ、「キャリアデザイン」にも通じるものです。

池田副学長は、「上智大学の新しい学びを通して、自分のやるべきことを見つけ、成長したい人。世界へ視野を広げたい人。自分の興味や関心をとことん掘り下げたい人。そんな本気で学びたい人のために、本学は最高の環境を整えて待っています。4年間の学びを終え、卒業するときに『本当にこの大学でよかった』と思っています。それが上智大学です」と意気込みを語っています。

PICK UP 充実した海外留学制度と学生サポート

(1) グローバル教育センター

全学生を対象に、グローバル社会に対応する多様な科目や海外勉学の機会を提供。交換留学、海外短期語学講座、海外短期研修、実践型プログラムなど海外プログラムに加え、インターンシップ科目、企業との連携科目、国際関係を学ぶ科目など、幅広い分野で100科目以上を開講。その約3分の1が英語による科目である。

(2) LLC (Language Learning Commons)

言語教育研究センターが企画・運営する、授業以外の語学学習をサポートする施設。「外国語コミュニケーショングループ」では、さまざまな言語の実践的な会話を少人数のグループワークで学べる。「英語学習アドバイザー制度」では、英語圏への留学を目指す学生などに、効率的な勉強方法をアドバイスする。

上智大学には世界約60カ国に340を超える交換留学協定校があり、毎年350名以上の学生が海外で学んでいます。短期留学プログラムは1年次から参加でき、多くの新生が夏休みにチャレンジしています。卒業後のグローバルな学びやキャリアも支援しており、海外大学院との3+2プログラムや、アメリカの大学院への特別支援制度により名門大学院への進学が可能です。3+2プログラムは、上智大学で3年(あるいは3.5年)、海外大学院で2年の計5年(あるいは5.5年)学び、上智大学の学士号と海外大学院の修士号を取得できるというものです。しかも海外大学院の1年分の学費は免除されます。



1789年創立のアメリカ最古のイエズス会大学で、上智大学と連携の深いジョージタウン大学大学院



短期留学



実践型プログラム(アフリカに学ぶ)

「3つのポリシー」(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)が適用される2027年度入学者から、全学部で履修上限単位数を引き下げます。学期ごとの履修上限を20単位とし、授業1回あたり週190分の授業外学修を行うことを想定。併せて、「開講科目の半数以上を週2回授業とすること」「4年次生用の必修科目を開講すること」も推奨します。

「現在は授業外学修が週に数時間という学生も少なくありません。これを20時間、30時間へと増やし、充実した学びにつなげられるよう、さまざまなサポートを行います」と池田副学長は説明します。

「具体的には、統計やデータ分析について質問できるデータサイエンス・クリニック、レポートや論文の書き方を相談できるライティング・ラボなど、既存の学修サポートサービスを統合的に発展させる予定です。また、教員の負担軽減に向けて、TA(ティーチング・アシスタント)制度の見直しに着手するとともに、ファカルティ・デベロップメント(教員の能力を向上させる組織的な取り組み)も充実させます」

さらに、海外大学との単位互換制度も見直します。海外の大学では履修する授業数が少ない一方、授業外学修に多くの時間を充てるのが一般的です。そこで、授業外学修時間も含めて海外大学の単位を換算できる仕組みを導入する方針です。これにより、長期留学をしても4年間で卒業しやすい環境を整えます。

「本学も海外の大学と同様に、授業外学修に力を注ぐことで、留学先でも戸惑うことなく学びに取り組みめるようになります。まさに、本学にいながらにして世界基準の学びを経験できるのです」

